



平成19年度文化芸術創造活動重点支援事業

Rohm Music Foundation  
ローム・ミュージック・ファンデーション

# モーツアルト室内管弦楽団 第122回定期演奏会

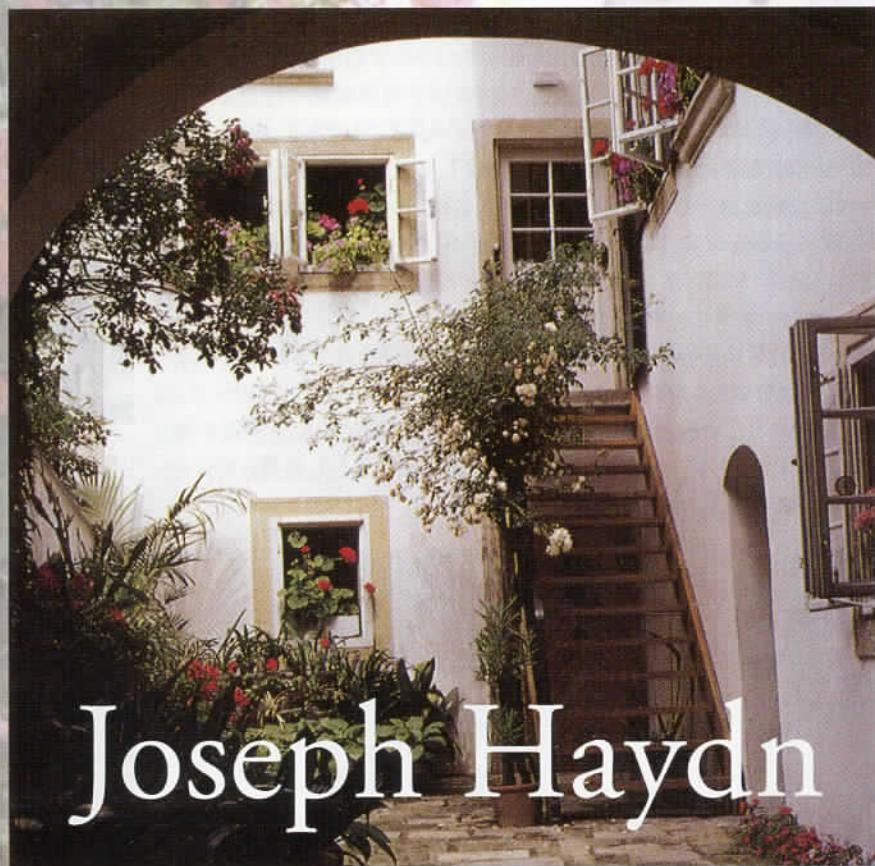
〈2009年 没後200年 ハイドン・シリーズ〉第3回

ハイドン最後の超大作

## オラトリオ《四季》

(日本語字幕付)

„Die Jahreszeiten / The Seasons“



Joseph Haydn

アイゼンシュタットのハイドン・ハウス

ハンネ：木村能里子（ソプラノ）

ルーカス：西垣 俊朗（テノール）

シモン：井原 秀人（バリトン）

モーツアルト記念合唱団（合唱指揮：益子 務）

指揮：門 良一

2007 12/2 2:00pm開演  
(日) (1:30pm開場)

いずみホール

JR環状線「大阪城公園」駅から3分、「京橋」駅から7分、  
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅から5分  
有料駐車場完備

入場料：一般 ¥5,000（指定席）／学生 ¥2,500（当日限定数発売）

\*小学生よりご入場いただけます。\*前売一般券完売の場合、学生券の販売はありません。

主催◆モーツアルト室内管弦楽団 協賛◆いずみホール【財団法人 住友生命社会福祉事業団】

マネジメント◆大阪アーティスト協会 TEL.06-6135-0503 FAX.06-6135-0504 〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909

前売=大阪アーティスト協会 050-5510-9645 電子チケット・みあ 0570-02-9990 いずみホール 06-6944-1188



# 『ハイドンを忘れてもらっては困ります』

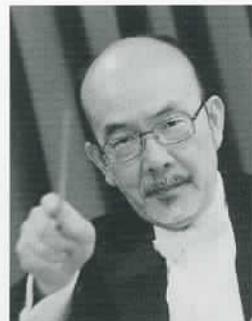
モーツアルトはその生誕250年を世界中が祝った。ベートーヴェンは不動の人気を誇っている。〔ウィーン古典派〕と呼ばれる3巨匠のうちで筆頭であるべきハイドンは、この二人の後塵を拝しているのが現状である。だが、もしハイドンがいなければ、モーツアルトやベートーヴェンの交響曲も弦楽四重奏曲もこの世に存在しなかっただろう。いわゆる古典音楽の基本スタイルはハイドンによって創造され確立されたのである。また、ハイドンの音楽の持つ健康さとユーモア、そして品格ある秩序感は、今の世に最も必要とされるものであろう。モーツアルト室内管弦楽団はハイドン復興をめざし、2009年の没後200年に向けて〈ハイドン・シリーズ〉を行っている。

『ハイドンを忘れてもらっては困ります』——これは、フランス映画「ハンカチのご用意を」の中で、主人公の少年がモーツアルトばかり聴かせる音楽教師に対して抗議することばである。川本三郎氏著「東京つづれ草」(1995年三省堂)から引用させていただいた。

## モーツアルト室内管弦楽団／指揮・門 良一

Mozart-kammerorchester / Ryoichi Kado, Dirigent

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、35年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツアルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツアルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツアルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツアルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツアルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ビリス(85、87年)、シブリアン・カツアリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル'86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツアルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、93年には堺シティオペラとの協力による〈モーツアルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツアルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。



ハンネ：木村能里子(ソプラノ)



ルーカス：西垣 俊朗(テノール)



シモン：井原 秀人(バリトン)

## モーツアルト記念合唱団／合唱指揮・益子 務

Mozart-Choral Ensemble (Chor-Dirigent / Tsutomu Masuko)

「本番のステージで柔軟に音楽をすることのできるプロフェッショナルなコーラスがほしい」という、モーツアルト室内管弦楽団の要望を受け、特別に編成された合唱団。女声は堺シティ・オペラの選抜メンバー(若手プロ)を中心に、男声は合唱王国関西の著名合唱団の指揮者、パートリーダークラスに参加を要請、1991年7月末に発足し、益子 務氏の指揮のもとに練習を開始した。同年12月モーツアルト室内管弦楽団のモーツアルト没後200年記念第48回定期演奏会で「レクイエム」を協演、それ以後ミサ、オラトリオ、オペラなどで年2~3回協演し、なかでも92年のベルリオーズ「キリストの幼時」(関西初演、以後93、94、96年と続演)、95年のモーツアルト「ハ短調大ミサ」、99年のハイドン「天地創造」、ヘンデル「メサイア」などは特に好評を得た。93年9月には初の単独自主公演として、ジャニース・ワグナー氏を客演指揮者に迎えて〈ロジェ・ワグナー・メモリアルコンサート〉を開催し、大好評を得た。98年8月にはベルギー・フランドル政府の招きにより文化交流使節としてベルギー国内で4回の演奏会を行い、大成功を収めた。創立10周年記念CD「ロッシーニ：ミサ・ソレネレ」リリース。2000年5月第2回ベルギー演奏旅行を行う。

